

# シート4 連携に向けた課題の解決策

### 取り組みに必要な視点

#### 患者・利用者を第一に考える

- ◎利用者さまのニーズを聞く
- ◎本人を抜かして医療と介護事業所で話し合わない
- ◎「本人の思い」に対する医療職と介護職の温度差がある → 本人の希望していることをみんなで聞く
- ◎本人・家族が相談しやすい環境
- ◎本人を中心とした率直な意見交換
- ◎本人・家族の思いの共有が難しい

### 取り組みに必要な要素

#### ケア連・在支協を活用する

- ◎行政はもっとケア連を「利用」して
- ◎ケア連・在支協が公的な会議を行う
- ◎ケア連・在支協の定例会を「地域ケア会議」とする
- ◎ケア連内に課題について考える小グループを設ける
- ◎ケア連を活かして往診医のリストを作成
- ◎ドクターはもっとケア連に参加を

この2つを両輪として進めるのが「札幌方式」ではないか

#### コーディネーター

- ◎コーディネーターが必要
- ◎リーダー、連携のキーを明確化する
- ◎各事業所間をつなげるシステムが必要
- ◎行政のリーダーシップが必要
- ◎各職能団体によるバックアップ
- ◎医師会主導での医療職グループの形成

#### チームワーク

- ◎お互いをねぎらう気持ち
- ◎各専門職同士がお互いを尊重する。マナー
- ◎「知らない」「わからない」と突き放さずきちんと聞いて答える態度が必要
- ◎サービスチームでお互いのできることで、できないことへの理解
- ◎Win-Winの関係づくり（「役に立つ」と認識してもらう）
- ◎関係機関の課題の共有

#### 個人の頑張り

- ◎ちょっと大変な仕事も頑張ってる

### 「出会い」「交流」の場を持つ

#### まずは顔合わせ

- ◎連携する際はまず顔合わせに来てほしい
- ◎なるべく会議・イベント等に参加する
- ◎連絡を積極的に取り合う
- ◎もっと多くの職員がワークショップや研修に出て関係づくりをしてほしい
- ◎マメに顔を合わせる
- ◎顔を合わせることを諦めない
- ◎お互いにディスカッションの時間を作る
- ◎まず知っている人から連携の輪を広げる
- ◎会合では自分の職種のプレゼン
- ◎顔と名前を一致させるには写真付きの名刺が有効

#### ケア連等の例会を活用

- ◎ケア連等への参加      ◎ケア連で事例検討
- ◎ケアマネ連協への参加   ◎月に1回集まる
- ◎ミニリハ連に多職種の参加を促す

#### 研修・実地研修

- ◎他職種連携事業の実施
- ◎他職種参加型の研修会の企画
- ◎言語を共通化する勉強会をする
- ◎異職種体験
- ◎成功事例の積み重ねと発表
- ◎今回のワークショップのような交流機会への参加
- ◎医師会主催でケアマネ向け研修を行う
- ◎一事例ごとの縦断検討会・振り返り
- ◎参加したくなるようなテーマの検討が必要
- ◎一緒に患者さんをケアできる時間があれば
- ◎在宅医療を体験・見学する
- ◎就業時間内での研修を！（参加は個人の意識の問題ですか？）

#### 飲み会・親睦会の開催

- ◎定期的な飲み会
- ◎定期的な研修会の後、飲み会
- ◎コミュニケーション
- ◎仕事抜きで一緒に楽しむ場・時間も必要
- ◎交流会の開催・参加
- ◎カフェ形式の気軽な集まり

### 医療・介護は連携の窓口を設ける・明らかにする

#### 医療側の窓口～MSW・地域連携室など

- ◎MSW または連携室に相談する
- ◎地域連携室担当者との連携を密にしてい
- ◎病院の窓口担当者をうまく外に出す
- ◎医師は忙しいのでサポートするナースがいれば

#### 介護側の窓口～ケアマネジャー

- ◎在宅のキーパーソンとしてケアマネも入れてほしい
- ◎ケアマネが中心になり情報の共有化を図る
- ◎患者・家族と医師の間に入り意思疎通の役割を担う
- ◎ケアマネが中心となることで連絡の時間ロスを解消

◎カリスマMSW・ケアマネを作る

### 他職種・地域・行政等との連携・協力

#### 薬剤師との連携・協力

- ◎薬剤師を積極的に活用する
- ◎薬剤師に担当者会議に来てもらう
- ◎札幌薬剤師会のホームページに「在宅医療受入可能薬局」が公開されている

**実施内容**

- ◎介護サービス利用者に服薬指導を行う
- ◎薬局は「どの科にかかれば良いかわからない」という相談に乗れることもある
- ◎お薬手帳を持参するように市民への啓発
- ◎複数の医療機関・処方箋による薬 → 一包化

#### 歯科医との連携・協力

- ◎口腔ケアも必要
- ◎歯科医師会には在宅協力医のマップがある

**実施内容**

- ◎口腔ケアセミナーの実施
- ◎歯科入院治療のススメ
- ◎65歳の口腔診査の義務制度化（歯科医にも主治医意見書を義務付けなど）

#### 行政の連携・協力

- ◎行政側にも連携の窓口を設ける
- ◎行政内の保健師の活用

#### 地域との連携・協力

- ◎地域住民との連携
- ◎民生委員・町内会役員の活用
- ◎福祉のまち推進センターとも協働したい
- ◎傾聴ボランティアとの連携
- ◎元気な高齢者が支える
- ◎町内会活動・ボランティア活動の強化が必要

**実施内容**

- ◎認知症サポーター養成講座などで地域力の向上を図る！
- ◎住民参加型のワークショップを実施
- ◎診療所内で茶話会などを開催して、外来患者と介護予防スタッフの顔合わせをしている

#### 地域からの情報収集

- ◎回覧板に地域包括支援センター宛の情報提供用封筒を配りサインをキャッチする
- ◎町内会、見守員からの声かけ→反応から情報をつかむ

#### 地域への情報提供

- ◎施設の機能や人材を地域へ還元する
- ◎急性期・回復期の医師が地域に出向いて啓発
- ◎町内会で介護保険の説明会
- ◎退院後、地域に戻ったときに見守りをしている人に情報等を伝える